

# にんにく

ユリ科：中央アジア

## 栽培暦

月	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12				
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
主な作業	○																																					
							追肥			追肥			収穫			乾燥																					除けつ	

### ■栽培のポイント

1. a 当たり 200 kg 以上の堆肥を毎年施用する。
2. 春先の乾燥に弱いので、春先雨の少ない年はかん水を行う。

■品種・種球量 ホワイト六片種等。a 当たり 1,800~2400 球 (26~30 kg)。寒冷地向けの品種で側球数が 6 片で配列が正しいものを種球とし、側球重 7.5 g 以上のものを使用する。

### ■本畑の準備

- ・ 1 アールあたり 200kg 以上の堆肥を施用する。
- ・ 畝間 130cm、ベッド幅 100 cm、条間 20~25 cm の 4 条植えとし、乾燥を避けるため排水の悪いほ場以外では平うねとする。
- ・ 黒マルチを使用すると融雪による肥料の流亡も少なく、増収効果が期待できるほか、除草効果もある。

### ■施肥

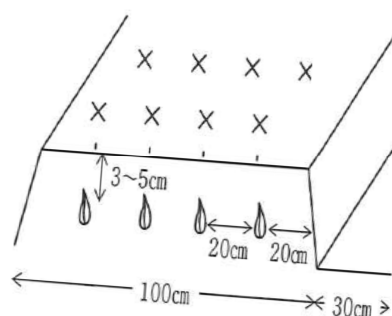
・定植前に窒素成分で 1.3kg 施用し、春の萌芽前、1 か月後の 2 回に分けて 0.8kg 程度追肥する。

### 施肥例

(a 当たり)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
BM ようりん	6kg	—kg	成分量 窒素 2.1 kg リン酸 3.0 加里 2.0
硝石灰	12	—	
ポリホス S666P 号	8	—	
麟硝安加里 S604	—	5	



## ■植え付け

- ・植え付け時期は、本県の場合、10月上旬～中旬が適している。12月までに本葉が2枚程度伸長していると、翌年の生育が早く進み、高収量が期待できる。植え付けが早いと越冬中に茎葉が損傷して減収する。植え付けが遅れると発根、発芽が遅れ減収する。
- ・植え付けの深さは3～5 cmが適正で、深すぎると萌芽や生育が悪く、浅いと凍結して寒害を受けやすくなる。また、生育中の葉の向きを揃えるため、側球の向きを揃えて植え付ける。
- ・黒マルチ栽培をしない場合は、植え付け直後に除草剤を噴霧機で土壌全体に散布する。

## ■栽培管理

- 【**茎葉出し**】萌芽後の茎葉がマルチ下に潜り込んでしまうと、生育と収量が著しく劣る。このため、雪が積もる前と春に伸長を始める前の2回、茎葉をマルチ穴から出す。
- 【**除けつ**】大きい側球を植え付けた場合など、一株から芽が2～3本出てくる株があり、これをそのまま放置すると、生育や品質に悪影響を及ぼすため、秋のうちに生育の良い芽を1本残し、他は早めにかき取る。
- 【**追肥**】消雪直後に1回目の追肥を行い、2回目は4月下旬までに施用する。追肥が遅れたり、量が多すぎると、玉割れなど品質低下の原因になるので注意する。
- 【**摘蕾**】抽だいすると収量が低下するので、とうが葉鞘から完全に抜け出してから除去する。ホワイト六片種等、品種により、とうが葉鞘の中から出てこないものがあり、この場合は無理に摘み取らない。
- 【**かん水**】5月～6月の土壌乾燥により球の肥大が影響を受けやすいので適宜かん水する。

- 病害虫防除** 生育期に、葉枯病、さび病、アブラムシ、ネダニ等が発生するので、初期防除に努める。

## ■収穫・調製

- ・本県では6月中旬～下旬が収穫期となる。茎葉が1/3程度黄化する前に試し掘りを行い、にんにくの尻の部分が水平からわずかにへこむ程度になっていることを確認してから収穫を始める。
- ・収穫時期が遅れると裂球の発生が多く、球の色沢も悪くなり、品質が急激に低下するので注意する。
- ・収穫は晴天の日に行い、手掘りまたは機械掘りで行う。手掘りの場合、スコップなどで予め根切りを行っておくと効率的である。
- ・掘り取ったにんにくは、2～3時間日干して軽く乾燥させ、土を落としたら直ちに根を除去する。10株ずつまとめ、風通しの良い場所で40日程度陰干しする。